

# 学校自己評価報告書

(令和6年度)

令和7年5月

学校法人 伊藤学園

明美文化服装専門学校

# 目次

I	学校の現況	1
II	教育理念	2
III	教育・重点目標	2
IV	評価項目の達成および取組状況	
(1)	教育理念・目的・育成人材像等	3
(2)	学校運営	3-4
(3)	教育活動	4-6
(4)	学習成果	6
(5)	学生支援	6-7
(6)	教育環境	7-8
(7)	学生の募集と受入れ	8-9
(8)	財務	9
(9)	法令等の遵守	9
(10)	社会貢献	10-11

## I 学校の現況

(1) 学校名 明美文化服装専門学校

(2) 所在地 〒456-0002  
名古屋市熱田区金山町1-11-8

(3) 沿革

■昭和26年4月

現在地に明美洋装学院として開校

■昭和29年4月

1次増改築

学校法人伊藤学園設立認可 文化服装学院（東京）連鎖校となる。  
学校名を明美文化服装学院と改称。

■昭和36年4月

第2次増改築

■昭和43年4月

第3次増改築

■昭和47年5月

明美山荘完成（御岳鈴蘭高原）

■昭和51年4月

専修学校法に基づき専門学校に昇格。  
明美文化服装専門学校と改称。

■昭和60年

大学受験資格付与指定校となる。  
<高等課程>（文部科学省）

■平成7年

専門士の称号の認可を受ける。  
<専門課程>（文部科学省）

■平成9年

愛知産業大学産業デザイン学科との提携による  
大学卒業資格が同時に取得  
（プロフェッショナルコース4年）新設

■平成17年

高度専門士の称号認可。  
大学院入学資格付与指定校となる。  
<専門課程>（文部科学省）

## II 教育理念

服装に関する知識や技術を学ぶだけでなく、生活を取り巻く音楽や映画、雑貨、インテリアなどに感性のアンテナを広げ、今の時代をとらえたファッションを作り出せる人材を育てます。

## III 教育・重点目標

- (1) パターンテクニックには特に力を入れ、美しいシルエットを作り上げ、即戦力となるスペシャリストを育成する。
- (2) ライフスタイルの分析で感性と実務のバランスを養う。
- (3) 業界のニーズに適応できる人材育成。
- (4) 伝統を重んじて、先輩から後輩へ確実に引き継いでいく。
- (5) 少人数制で、個々に合わせて目標達成できるように指導する。

#### IV 評価項目の達成および取組状況

##### (1) 教育理念・目的・育成人材像等

本校は、私たちを取り巻く空間、生活全てがファッションであるという考えから出発しています。服装に関する知識や技術を中心に置き、人間の生活そのものを取り巻く音楽、映画、雑貨、インテリアなど感性のアンテナを広くひろげ、産業界全体を見通すことの出来る人材の育成が目的です。

今、ファッション産業界は大きく変化しようとしています。現在よりも更に職種も細分化され、それぞれの分野でプロを必要としています。本校ではそのニーズに合わせた教育をしているのが大きな特徴だと思います。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1	0
2	学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1	0
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1	0
4	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが、学生・保護者に周知されているか	4	3	2	1	0
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1	0

##### (2) 学校運営

前年度末には、次年度の学校運営（学校行事）を全教職員の会議の席で決定する。この会議で各係は報告できるように準備する。例として、一大イベントのファッションショーについては、会場、日時等決定事項を報告し、反省も加え、次年度は前年度より高度なものとする。

他方、上記のような学校運営を実行してゆく上で、当然のことであるが、給与規定、就業規定、学則、寄附行為、その他各種規定等の規則変更等が必要となる場合もあり、その観点からも、しっかりした対応を行う。

そして、学校運営において、当校が最も大切にする姿勢は、入学、オリエンテーションから始まり、インターシップ、就職等に至るまで、一貫して、学生1人1人を重

視して、推選し、決定するという姿勢である。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1	0
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1	0
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	4	3	2	1	0
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1	0
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1	0
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1	0
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1	0
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1	0

### (3) 教育活動

カリキュラムは、体系的に編成されているが、専科2年間のうちに単位を取ることとし、1人1人が自分の時間割を作る事が出来る。(例：1年目はファッション販売、2年目はパターンメイキングを選択) と言うように、先生と担当教科が発表されているので、自分で集中して学びたいことを選択して1週間の時間割を作る。この方法を取ってから生徒の休みが少なくなった。いわゆる大学のゼミ的方法を実施している。

インターシップについては、ナゴヤファッション協会と企業が中心となり、1年生から4年生まで各自が選択し、協会が平均的に振り当て、愛知県の服装学校が学生を企業に送り成果を上げている。評価項目の8～13は行われている。

唯12については十分とは言えない。職員についての能力開発はよく行っているのので、各教員は受講したい講義だけ受ける事になっている。見解を広め、学生が喜んで自ら拓き進んで勉強するような授業が出来る円満な教師になるよう努力をする。教育活動は、本校の定める教育理念並びに教育理念を具体化する教育・重点目標に沿って、色々な点で細心の注意が必要である。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1	0
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1	0
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1	0
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1	0
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1	0
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1	0
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1	0
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1	0
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1	0
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1	0
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1	0
12	関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1	0
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	4	3	2	1	0

14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1	0
----	------------------------	---	---	---	---	---

#### (4) 学習成果

いくら学習成果が向上し、コンテスト入選、資格取得と結果が出ても、やはり最終目標の就職について、一つ目に自分の目的の職種で就職出来たか、二つ目に目標としていた企業に入社出来たか、この2点がある程度満足でなければ学習成果が向上したとは言えない。

唯本校としては、卒業生の動向を10年後、20年後、30年後と長きにわたり知ることが出来たら嬉しいが、残念ながら分からないのが実状です。もっと同窓会の活動をさかんにしていき、自然と卒業生の卒業後の様子を、今より把握出来るようになることを目指したいと思っている。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	就職率の向上が図られているか	4	3	2	1	0
2	資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1	0
3	退学率の低減が図られているか	4	3	2	1	0
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1	0
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1	0

#### (5) 学生支援

学生にとって一番大切であり、迷うところでもある進路、就職又その他プライベートの相談に関することは係（主に担任）がおり、それでも解決出来ない時は校長、又は相談事に対して専門知識のある先生を当てる。

経済的な支援は満足とまではいかないが、ある程度は体制が出来ている。健康管理は新学期の始めに医者による健康診断、常備薬、保健室等は一応整っている。課外活動に対しては一切行っていない。

相談の中には生活環境の問題もある。1人暮らしの学生の住所には注意して、環境

のあまり良くない所は移転をするように促す。

保護者と担任、または校長その他事務等の間では細部に渡り連絡を取り合う。卒業生とは同窓会も有り、しっかりとしている。例えばイラストレーターなど専門職の新しい事など、今の社会に必要な事は色々あるが、教育の環境は十分整っている。CADも経済的に大変だが、整えている。

小規模な学校ではあるが、教育関係、学生の心の問題、就職等に関しては人数が少ないから出来ることが多いと思う。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	0
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1	0
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1	0
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1	0
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	0
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1	0
7	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1	0
8	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1	0
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1	0

#### (6) 教育環境

内と外、両面から考える問題である。

学校の内部は教育に対する整備、施設について学校は小規模で経済的には大変でしたが、まだ服装関係が今程悪化していなかった頃に、出来る限りの費用を設備に投入した為、非常に少人数になってから今の所、何の設備を追加しなくても良いのが大変助か

っている。

防災の観点では、一番気がかりなのが地震である。少しでも多くの知識を持つことにより、判断力をつけ、良い方向に学生を向かわせる事が大切だと思う。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	0
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1	0
3	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1	0

#### (7) 学生の募集と受入れ

学生募集活動は大変苦勞する課題である。何故なら、近年学生の側に、相当程度、服・ファッションに対する関心があっても、それが、必ずしも職業選択に結び付かない状況がある一方、服飾関係の卒業生の重要な職場であるべきデパートでの服売場が活況を失っている状況があり、卒業生の就職が必ずしも容易ではない状況にある。就職問題については、このような状況の改善が要求され、これを解消しなければ、根本的解決は難しい。

そこで、長期的視野で専門学校が地道に取り組むべき対応は、卒業していく学生達に「一生楽しいこの仕事が続けられるような能力」をそれぞれの個性に合わせて身につけさせる教育をすることである。

そして、このような教育を実現する為には、少人数制でなければならない。本校は、計算づくでない前向きな姿勢で、学生の為に頑張るという信念を確認しつつこの課題に取り組んでいる。そして、この観点から、本校では、当面、広告はほぼ止め、ホームページ中心で宣伝を続けてみようと考えている。学納金の設定は妥当というより、低額に設定している。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1	0

2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1	0
3	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1	0

(8) 財務

昭和29年より学校法人となる。その為、沿革にある通り第3次増改築を行う。その頃までは、銀行より借入れをして、担保は校舎になっていた。この頃は、嫁入り道具の一つとして洋裁を習い免状が道具であった。この頃より、県庁の方の紹介された「大矢税理士事務所」に財務関係の書類をお願いし、今日に至っている。昭和40年頃より財務基盤は安定し、夜間部などは一時300名程度在籍し、その代は新しい設備をしっかりとし就職にもプラスになり、カリキュラム・教員の能力等も一流とし、小さくてもしっかりとした学校のイメージを徐々に、卒業生の就職先企業に定着していったと理解している。

平成28年～30年の3年間は学校の危機であり、職員の入替えを大幅に行った。平成31年になり、危機的状況は脱した。これは、何事も隠さず正直に話をする事により理解を得ることが出来た成果である。

現在、今後、継続的な学校経営を確保する上での財務的基礎は、再確認出来たと理解している。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1	0
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1	0
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1	0
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1	0

(9) 法令等の遵守

本校は昭和29年に学校法人となってからは、それ以前の塾型傾向から学校傾向へ変化していった。私的から公的に何事も考え、設置基準はもちろん守り、何事も初めが大事であるから、厳しく運営してきた。学生の個人情報に関しては、下記のとおり対策がなされている。

- ・学生の個人情報は学校より一步も外へ持ち出さない。
- ・退職教員は、学生・学校の色々な情報を学校に返却してから退職する。
- ・退職教員は、次の担任へ学生の個人情報を正確に引継ぎする。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
		4	3	2	1	0
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1	0
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1	0
3	自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか	4	3	2	1	0
4	自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1	0

(10) 社会貢献

出来る限り協力を惜しまない。学生にも本当の意味でのボランティア活動をする事により、自然に身につくようにさせたいと思う。

「私でも助けられる」という標語の献血運動ポスターが校内に掲示されている。以前、血を取る際にミスがされ、外科医が手当てをするまでに至った事があった。保護者の方には学校から経緯等を説明し、理解してもらった。これ以降献血に関しては、希望者が個別に行くよう指導している。採血等を行う側は少し考えていただきたい。

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0				
		4	3	2	1	0
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1	0

2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1	0
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1	0